

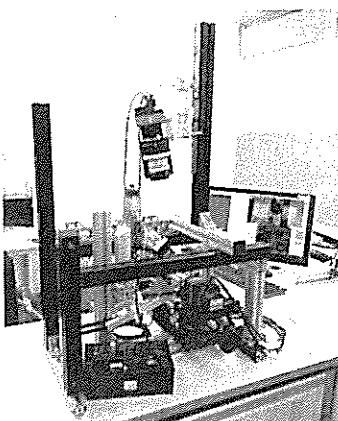
金属部品の外観検査装置

【横浜】アイエスシー（川崎市中原区、寺田浩之社長、044・431・2080）は5月末、人・工知能（AI）を活用した金属部品の傷などの外観検査ソリューション事業を始める。検査箇所をカメラで撮影し、画像データをもとにAIで欠陥を検知する外観検査装置を新たに開発した。中小製造業を中心に販売を狙う。検査ソフトのみの受託開発などにも個別対応し、初年度1000万円の売り上げを目指す。

消費税抜きの標準価格は約800万円。画像の検査時間は約0・5秒。最小8倍率（マクロは100万分の1。部品の検査に使え

AIで正確に欠陥識別

アイエスシー



企業のスムーズな部品製造を支援する（外観検査装置）

タをもとに部品の汚れや研磨のむら、打痕、欠けなどの各種欠陥を高精度で検知する。

自社従来品の外観検査のアルゴリズムでは、部品を撮影した白黒く写った欠陥が汚れ

か傷などの細かな識別が難しく、過剰に判断するなどして生産ラインを停滞させることがあつた。

新装置はAIの深層学習（ディープラーニング）で欠陥のパターンを蓄積。既存のアルゴリズムと一体的に運用することで、より正確に欠陥を数値化し判別していた。この場合、確な識別を可能にし

た。同社は画像処理システムを活用した製品検査機器、監視カメラなどの画像記録装置、ハイスピードカメラの制御ソフトウェアなどを手がける。AIを生かした高精度の外観検査で、人手不足などの課題を抱える顧客企業の生産性の維持向上を支援する。